

平成31年度
 劇場・音楽堂等機能強化推進事業
 (地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)
 成果報告書

団 体 名	公益財団法人しまね文化振興財団	
施 設 名	島根県芸術文化センター 島根県立いわみ芸術劇場	
助 成 対 象 活 動 名	公演事業・人材養成事業・普及啓発事業	
内定額(総額)	8,965	(千円)
公演事業	3,539	(千円)
人材養成事業	2,325	(千円)
普及啓発事業	3,101	(千円)

1. 事業概要

(1) 平成31年度実施事業一覧【公演事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	池辺晋一郎&N響団友オーケストラ 島根公演	2019年11月17日 (日)	指揮・お話：池辺晋一郎、演奏：N響団友オーケストラ、プレトーク：池辺晋一郎・栗山文昭、共演ステージ：グラントワ合唱団、プログラム：交響詩フィンランディア（共演）、スラヴ舞曲、映画「影武者」テーマ曲他	目標値	810
		グラントワ大ホール		実績値	769
2	グラントワ フランチャイズ芸術団体 結成10周年記念 コンサート	2019年10月26日 (日)	出演：グラントワ合唱団、グラントワ・ユース・コール、グラントワ弦楽合奏団、島根邦楽集団 総合プロデュース：広兼伸俊（グラントワ・ユース・コール団長） プログラム：ふるさと、花は咲く、桜花爛漫（島根邦楽集団委嘱曲）他	目標値	550
		グラントワ大ホール		実績値	423
3	MUSEUM×THEATER ミュージア みんなの音楽室	2019年6月2日（日）	相川瞳、林正樹、鈴木広志	目標値	200
		グラントワ多目的 ギャラリー		実績値	106
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	

(3) 平成31年度実施事業一覧【普及啓発事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	いつでもどこでも音楽祭	5月19日～2月2日	田中公道（テノール）、林千夏（チェロ）、小暮浩史（クラシックギター）他	目標値	540
		グラントワ美術館ロビー他		実績値	632
2	益田糸操り人形公演	7月24日～11月22日	出演：益田糸操り人形保持者会	目標値	500
		グラントワ小ホール他		実績値	405
3	グラントワ 芸術家の派遣事業 (アウトリーチ)	9月14日～2月11日	東京アーティストツ合奏団（弦楽合奏）、井上さより（打楽器）、田野村聡（尺八）、石田真奈美（箏）、藤高理恵子（琵琶）、今福座（和太鼓）、桂歌若（落語）他	目標値	300
		圏域各地		実績値	368
4	島根邦楽集団 第14回定期演奏会 <中止>	本番<中止>：3月1日、 事前指導：11月9日～2月9日	出演予定者：島根邦楽集団、川村泰山（指揮）、川村葵山（尺八）、ジュニア邦楽塾塾生、日本音楽集団（ゲスト） 予定演目：絹の道、剣の舞、春のうた、夏の一日他	目標値	820
		グラントワ大ホール他		実績値	練習参加者 525
5	グラントワ弦楽合奏団 第9回定期演奏会 <中止>	本番<中止>：3月22日、 ミニコンサート、セミナー：5月11日～2月9日	出演予定者：グラントワ弦楽合奏団、Mizuho Strings、東京アーティストツ合奏団 予定演目：アイネ・クライネ・ナハトムジーク、ハンガリー舞曲他	目標値	600
		石央文化ホール、グラントワ小ホール他		実績値	入場者 316、 参加者 87
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	

2. 自己評価

(1) 妥当性

自己評価
<p data-bbox="113 297 1477 387">社会的役割（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。</p> <p data-bbox="113 450 1477 768">人口減少と少子高齢化が深刻な島根県西部地域において、地域と文化の「触媒」になることと、新たな文化をはぐむ「舞台」になることが当劇場の重要な社会的役割である。文化芸術への接触機会や活動の場が少ない当該地域において、劇場が開館当初から活動支援に取り組んでいるフランチャイズ芸術団体の多くが活動10周年を迎えることや、3年間継続して実施してきた大規模合唱イベント『グラントワ・カンタート』が、今年度県庁所在地である松江市において初開催され、劇場が位置する益田市での実施が無いことなどを踏まえ、地域の文化活動の空白期間を生まず、継続性を保つため、公演事業・人材養成事業を中心に単なる鑑賞に留まらない地域住民の参画機会を増やし、フランチャイズ芸術団体の活動成果披露やステップアップ、広く文化活動者の掘り起こしと交流促進を図った。</p> <p data-bbox="113 786 1477 1014">劇場が継続的に取り組む合唱、邦楽、弦楽、伝統芸能に加え、地域的に開催機会の少ない分野については、ワークショップ（演劇）や講座型式の事業、美術館との共同企画事業（現代音楽）を開催することで、ジャンルの空白を補完するよう努めている。また、劇場外で行う事業については、高齢者福祉施設や障がい者就労支援施設などでの開催を重ねており、教育現場へのアウトリーチと合わせて「多様な環境の人々へ文化芸術を届ける」という劇場の社会包摂的な役割を果たす基盤を整えている。</p> <p data-bbox="113 1077 1477 1252">2020年2月中旬までは予定通り事業を実施していたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、3月に予定していた大小12の事業を中止し、助成事業についても4講座・4公演を中止とした。過去実績からの推測値として約1,500名の鑑賞・参加機会が失われる事態となり、劇場の事業計画全体に大きな影響が発生した（交付申請時点の総事業予算に対する決算実績額76%）</p>
<p data-bbox="113 1301 1477 1346">助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。</p> <p data-bbox="113 1408 1477 1583">今年度、劇場が長年取り組んできたフランチャイズ芸術団体活動支援事業が10周年という節目を迎え、記念公演が実現した【公演2】。合唱団体の地元指導者が総合プロデューサーを務め、各団体が自主性を持って合唱・邦楽・弦楽という異ジャンルの難しいコラボレーションを成功させた。個別の団体の活動も、定期演奏会や季節のコンサート、イベントへのゲスト出演など多岐にわたり、積極的に発表機会を求める動きが顕著で、地域の文化活動を牽引している。</p> <p data-bbox="113 1601 1477 2018">また、これまで平成28年度から3年間助成を受け、継続開催してきた劇場を代表する大規模合唱イベント『グラントワ・カンタート』を2020年1月に『しまねカンタート』として初めて松江市で開催し、関東・中国地方などから26の団体が参加。その翌日には当劇場で『しまねカンタート・アフターコンサート in グラントワ』を実施。石見地域の中高生が参加する『いわみ合唱塾ティーンズ・プロジェクト「ネクスト・クワイア」』【人材1】やフランチャイズ芸術団体のグラントワ合唱団など、両方のカンタートに出演した合唱団体もあり、劇場から誕生したカンタート事業の波及効果が全县に広がり、文化的・経済的なアウトカムを生んでいる。こうしたフランチャイズ芸術団体の成長や、一般参加型事業の活動の広がり、助成によって長年継続実施している人材養成事業や公演事業への参画によって実現しており、いわみ芸術劇場の特徴的な取り組みであり、公共劇場と地域連携の新たな可能性の模索としても、今後も継続して重点的に取り組んでいきたいと考える。</p>

(2) 有効性

自己評価

目標を達成したか。

■公演事業

おおむね各指標を達成した。来館者の年齢構成バランスの指標については、若年層(15歳未満)の来館者割合は人口割合(益田市12.1%)と比較して20.3%という高い実績値を示しているうえ、昨年度の9%から大きく数値を伸ばしており、満足度の面でも指標・昨年度実績を超えている。石見地域以外からの参加者の実績が指標(20%以上)に届かず、9.4%に留まったことは、昨年度まで継続開催していた全国規模の事業『グラントワ・カンタート』が今年度不開催であったことが大きく影響した。総合的に見て、圏域住民を主なターゲットにした事業が多く、圏域住民の満足度は高い年度だったと言えるが、引き続き、域外からの来館を促し、劇場や地域の魅力を広く伝える努力が必要と思われる。

■人材養成事業

実演芸術体験機会の乏しい県西部へのアプローチとして、県内外の優れた講師陣を招聘し、技能向上と活動の活性化を目的に実施。特に若年層に比重をおきたいわみ舞台塾では、6~20歳の参加者が目標値250名以上に対して235名(94%)となり、僅かながら前年度の92%より増加した。また、新規参加者募集も各種広報媒体にて積極的に行い、20%の目標値に対して42%と前年度の36%を大きく上回り、取り組みへの理解促進と各事業の定着、参加者の広がりがみられる。さらに『鑑賞者育成講座グラントワアートサロン』【人材2】においては、広島交響楽団グラントワ定期公演前に実施したクラシック音楽講座の受講者が講座をきっかけに公演を鑑賞するケースが複数あり、アートサロン邦楽講座においては『いわみ舞台塾』【人材1】参加者の積極的な受講も見られるなど、講座によって刺激された文化的好奇心が劇場の鑑賞促進につながる効果があった。尚、人材養成事業全体を通じて、今年度目標の「次回への参加継続希望者50%」に対して実績が大きく上回る75%の結果が出ており、内容の充実が活性化に有効に働いていることから、今後も広報と企画内容の充実を図り、事業効果を高めていきたい。

■普及啓発事業

劇場事業を中心に、市内外において西洋音楽、邦楽、伝統芸能などの分野で活発に普及事業に取り組んだ。10周年を迎えるグラントワ弦楽合奏団(フランチャイズ芸術団体)【普及4】は、主体性と安定した演奏技術を持って市外でのアウトリーチ演奏に取り組んでおり、地域の文化芸術を支える協働団体として活躍し、成長を続けている。また、地元の伝統芸能団体である益田糸操り人形保持者会は、劇場内外で年間8公演を実施【普及2】。近隣の小学生の地域学習の一環や、公民館からの招聘など多岐にわたり、地元伝統芸能の普及に貢献した。劇場外で行うアウトリーチ事業【普及3】は、6箇所にて実施。市内の総合病院や高齢者福祉施設での開催も定着しており、今年度初めて市内の障がい者就労支援施設で実施するなど、近年劇場の社会包摂の取り組みとしての役割を高めている。

年度末に複数の事業を予定していたが、国内の新型コロナウイルス感染症拡大により、3月の全ての事業を中止する結果となった。その影響もあり、劇場で開催予定の事業で期待された新規鑑賞者の獲得が一部実現できず、「初めての来場者が35%以上」の指標に対し、達成状況は25%にとどまった。また、中止事業には2つの市外公演や、2つのフランチャイズ芸術団体の定期演奏会も含まれており、年間活動の大きな成果目標である演奏会が中止となったことは、団体の活動にとって大きな損失である。

(3) 効率性

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

事業期間は、フランチャイズ芸術団体等の練習を除き、事業実施日換算しおよそ10ヵ月となり、年度を通じて多彩な事業を実施している(令和元年6月2日～令和2年3月22日 ※本番へ向けてリハ開催等実施のため新型コロナウイルスの影響で本番中止となったものも含む)。また公演事業の多くは、実施準備と後処理を含むと前年度から企画調整を進めるなど、事業ごとに要する時間のバランスを鑑みながら実施内容の充実を図った。人材養成事業、普及啓発事業の大半は関わる講師も多く、フランチャイズ芸術団体への外部講師として招聘した東京アーティストツ合奏団を指導日程に合わせて地域福祉施設へ派遣しアウトリーチを実施【普及3】、『キッズ邦楽塾』【人材1】講師の指導日程に合わせて『鑑賞者育成講座 Grant ワークショップ「邦楽講座」』【人材2】を開催するなど予算、日程面で各種事業を相互に連動・補完し合い、効率化を図った。

人材養成事業、普及啓発事業の多くは、年度後半に開催のフランチャイズ芸術団体定期演奏会(邦楽・弦楽)及びネクスト・クワイアや Grant ワークショップ合唱団の『しまねカントート』への出演を目指し、年度を通じて効果的な日程での実施を想定し、予め年度中盤以降に関連する事業を配置した。結果的に中止となった公演もあるが、参加者は成果発表という目標に向けて取り組んでいたため、年度後半まで全体として高いモチベーションを保ったまま運営することができた。また、入場者・参加者数は、目標値に対して①公演事業88%、②人材養成事業67%、③普及啓発事業85%となり、特に公演事業では当該地域では鑑賞機会の少ないクラシック音楽公演、地元演奏団体の発表などの文化芸術のすそ野拡大に主眼を置いた公演でありながら、高い入場者率に結びついている。尚、公演事業の総入場者数に対する有料入場者数は71%となっている。『池辺晋一郎&N響団友オーケストラ島根公演』【公演1】では、圏域の教育委員会等と協働して運営する「芸術文化とふれあう協議会」と連携し、小・中・高校生への鑑賞機会促進を目的に入場料補助(利用実績5%)を実施。今後は地域住民全体に対して芸術鑑賞の価値への更なる理解を目指し、料金設定や販売計画、各種団体との連携を図り、有料入場率引き上げを目指す。

事業費については、交付申請時／実績報告時比較の変更率は①公演事業-8.9%、②人材養成事業-21.2%、③普及啓発事業-41.2%となり、決算額が交付申請時の予算額を下回った。③は、新型コロナウイルスによる中止が最も多く発生したため、それに伴う支出縮小の影響が大きい。②と③は連動する事業が複数あり、来県講師やアーティストの旅費支出を抑えるため、来県時に複数事業開催を柔軟に企画し、事業費を抑えられた結果も含んでいる。

各事業における広報では、単体の事業広報物配布や各種情報誌への情報提供と併せて、年度合計305回の情報発信を行った Grant ワークショップ公式フェイスブックでの告知など、幅広い世代が情報を得られるためのクロスメディア発信も積極的に取り入れている。少子高齢化率の進む当地域において、情報取得の主は紙媒体及びマスメディアの割合が高く、ウェブサイトや SNS での情報による来場率は現状約5%に留まるが、若年層への発信と予算活用の効率化の観点から今後も広域的かつ即効性のある広報の両方を組み合わせ合わせた総合的な戦略を展開していく。また劇場のボランティア組織「Grant ワークショップボランティア会」や地域の関係団体との連携を充実させることで、事業実施における舞台技術サポートや広報、運営協力により人員、予算面での効率的な事業展開ができたと思う。

(4) 創造性

自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

すべての事業を通じて、当劇場にしかない資源を有効に活用し、限られた予算の範囲内で制作的工夫をこらしながら、世代や地域の垣根を超えた交流を促進し、住民の文化活動の深化をもたらした。当劇場の重要なパートナーであるフランチャイズ芸術団体や益田糸操り人形保持者会との連携をさらに強め、また美術館が併設する複合施設としての長所を生かした企画を進めた。具体的には以下の通りである。

当劇場は、開館以来4つのフランチャイズ芸術団体と協働して事業を進めてきた。成人合唱「グラントワ合唱団」、児童合唱「グラントワ・ユース・コール」、弦楽合奏「グラントワ弦楽合奏団」、邦楽「島根邦楽集団」の4団体である。このうち3団体が結成10周年を迎えることを記念して今年度、10周年記念演奏会を開催した【公演2】。開催に当たっては企画段階から各団体の代表者や指導者が意見を出し合い、プログラム構成や演出に工夫を凝らした。各団体単独ではできない大曲に取り組み、和楽器と洋楽器、合唱が一緒になり、息を合わせて一つの音楽を作り上げることで、大きな達成感を獲得し、次の挑戦への糧とすることができた。来場者には、小学生から80代までに及ぶ総勢123名の出演者が、生き生きと文化活動に取り組む様子や各団体の魅力を伝えることができた。

また、『池辺晋一郎&N響団友オーケストラ』【公演1】では、当劇場の芸術監督である合唱指揮者・栗山文昭と池辺氏が旧知の協働関係にあることから、グラントワ限定の企画として池辺氏・栗山氏のプレトークを設けた。当地域の文化的背景から劇場の響きの良さなどについて池辺氏独特のユーモアを交えた軽快なトークとなり、大きな付加価値を提供できた。また、前述のグラントワ合唱団が池辺氏指揮によるN響団友オーケストラと2曲共演したことも、フランチャイズ芸術団体がある劇場ならではの企画として好評を博した。

フランチャイズ芸術団体と並んで当劇場が長く提携して活動を続けてきたのが、益田糸操り人形保持者会である。明治時代に東京から伝わった当時の形態のまま上演する数少ない人形劇のひとつとして島根県無形民俗文化財に指定されている。当劇場は、人形操演、義太夫、三味線の講師を招聘して行う『後継者総合養成事業』【人材3】と、グラントワ公演と各地の公民館等で行う出前公演からなる普及啓発事業【普及2】の二本の柱で本年も事業を行った。保持者会会員の高齢化が大きな課題としてあるが、今年度は4名の新規入会者があり、うち2名は10代であり、少しずつこれまでの蓄積が実を結びつつある。公演の最後に、実際に近くで人形を見たり触ったりできる体験を行ってきていること、益田市や益田市教育委員会と連携して各地への出前公演を継続してきたこと、平行して養成講座を続けて会員の技術とモチベーションの向上に努めていることの効果と考えられる。

加えて、美術館が併設した複合施設であることを活用して、美術館との連携事業を行っている。公演事業のひとつ、『ミュージア みんなの音楽室』【公演3】では、美術館で開催する企画展『・(てん)とー(せん)、いろ、かたち』と連動し、展示から触発された音楽を色々な楽器で表現するワークショップや、参加者も交えてライブを行うという内容で、子どもから大人まで幅広い参加者を得た。また、通年開催しているロビーコンサート『いつでもどこでも音楽祭』【普及1】は全7回の内3回は、誰でも出入りできる共用スペースながら天井が高く響きが良い美術館入り口前のロビーを会場に、開催中の展覧会に関係したプログラムを演奏し、展示を鑑賞した来場者にも付加価値を提供できた。実演芸術だけでなく美術ファンにも訴求するプログラムや施設の建築特徴を活かした企画は、当劇場の強みと言える。

自己評価

地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながっていた（と認められる）か。

交通の便に恵まれず、少子高齢化が著しい当地では、まず鑑賞機会の提供、そして鑑賞者・実演家・愛好家の育成のニーズが高く、また文化芸術を通じての交流人口の拡大や観光施設としての役割を生かした当館と当地の魅力発信への期待が大きい。そのような状況の中で、今年度は様々な事業を通じてこれらのニーズに応え、地域の文化芸術の発展に寄与した。

まず、4つのフランチャイズ芸術団体は結成10年を迎え、活動の幅を広げ深化した。弦楽合奏団は、定期演奏会はやむを得ず中止となったが、それ以前に浜田市で2回、邑南町で1回ミニコンサートを開催した【普及5】。参加者への楽器体験なども盛り込んだプログラム構成で、弦楽実演者が少ない島根県西部地域で普及啓発の意義が大きい。島根邦楽集団は、定期演奏会はやむを得ず中止となったが、『キッズ邦楽塾』【人材1】を益田市と江津市で開催して、箏と尺八に初めて触れる子どもを増やした。島根邦楽集団の大人のメンバーが益田糸操り人形の三味線指導にもかかわるなど、広く地域の文化芸術を支え、相乗効果をもたらしている。グラントワ・ユース・コールは地域の病院でのコンサートなど、地域に根差した演奏活動を行った。少子化と部活動縮小により益田市周辺の中学校には合唱部がない中で、グラントワ・ユース・コールで小・中学校期間に合唱に親しんだ学生が高校生になり『いわみ合唱塾「ネクスト・クワイア」』【人材1】に参加して秋・冬に集中して合唱に取り組み、東京から招いたプロの指揮者と共にハイレベルで感動的な演奏を作り上げ、1月には松江市と益田市でその成果を発表した。「ネクスト・クワイア」との関わりにおいても、通年で活動するグラントワ・ユース・コールは、地域の合唱文化の基盤としての役割を担っている。一方、成人の合唱団であるグラントワ合唱団は、団員の高齢化をものともせず、地方であっても一流の音楽に触れ、合唱を通じて前向きに取り組む姿を見せた。『池辺晋一郎&N響団友オーケストラ』【公演1】ではプロのオーケストラとの共演に挑戦し、大きな拍手を浴びたが、当事業は県外からの来場者も多く、劇場のフランチャイズ芸術団体の活動を広く知ってもらう機会となった。

また、『グラントワ芸術家の派遣事業(アウトリーチ)』【普及3】では介護施設、障がい者就労支援施設、公民館等へバラエティに富んだアーティストを派遣した。弦楽、打楽器から邦楽、和太鼓、落語までの幅広いジャンルについて、日頃鑑賞のための外出が難しい方や、交通の費用負担が大きい地域の住民へ直接芸術体験を届けられた意義は大きい。この事業実施にあたっては他事業と連動して行うことで経費の削減、効率化に努めた。また、フランチャイズ芸術団体や『いわみ舞台塾』などを通じて培った幅広いアーティストとの日頃からの協働関係、また地元公民館や各種施設との関係性がプログラム作成から当日の良質な体験提供の実現へとつながっている。

平行して、鑑賞者の裾野の拡大や比較的なじみの薄い分野について知る、体験する事業として『いつでもどこでも音楽祭』【普及1】、『鑑賞者育成講座グラントワアートサロン』【人材2】や『演劇好き塾』【人材1】を開催した。伝統芸能のなかでも当地で鑑賞機会の希少な狂言や、クラシック・ギターや声楽など当地で鑑賞者が多いとは言えないジャンルも積極的に取り上げた。再開2年目となる『演劇好き塾』の参加者は、若年層が増えて昨年の1.5倍となり、新たに演劇に興味を持ったビギナー層とすでに活動している地域のアマチュア演劇人が混在して参加した。異なる層が交わることで、成果発表では実験的でユニークな作品が生まれるなど、参加者・来場者が演劇の魅力を感じ取る機会ともなり、演劇公演やワークショップ等の開催機会がほとんどない県西部地域における貴重な場となった。

(5) 持続性

自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展した（と認められる）か。

当該助成金を活用した事業は、劇場文化事業総事業費の約42%にあたり(令和元年度決算ベース)、劇場の中心的事業となっていることから、劇場や財団組織活動の発展と圏域文化振興に大きく影響している。

【組織・人材】

○組織体制

島根県立いわみ芸術劇場は、「総務広報課」「舞台技術振興課」「文化事業課」の3課を設置し、正規職員、準職員(無期契約)、契約職員(有期契約)の3つの雇用形態で32名が在籍している。文化事業や舞台技術等のノウハウや県内ネットワークの共有、人材育成などを目的に、島根県民会館(松江市)などの当財団が指定管理者として管理運営する施設間において、定期的に人事異動を行っている。

○研修等の人材育成状況

アートマネジメントをはじめ、舞台技術、施設運営、広報、社会包摂などの多岐にわたる研修会や講座等に参加している。また、外部講師を招いた勉強会を開催し、財団の組織経営も含めた専門人材育成に取り組んでいる。

・令和元年度実績: 研修・講座等合計21(防災等の訓練を除く)、日数計37日、参加人数112名(延べ数)

・参加研修会・講座例:「鑑賞支援コーディネーター育成講座」(文化庁・国際障害者交流センター)／全国アートマネジメント・舞台技術研修会(全国公立文化施設協会)／地域創造フェスティバル((一財)地域創造) ほか

・勉強会外部講師: (一社)芸術と創造、NPO 法人 Explat、(株)政策技術研修所 ほか

○ボランティア組織

グラントワボランティア会: 地域住民によるボランティア組織。公演フロント業務、広報、施設美化など11の部門で構成され、施設運営全般を支えている。現在約70名が参加し、接遇や外部視察などの定期的な研修も行っている。

【財務】

○財政状況: 施設利用料、入場料、指定管理料といった事業収入や外部資金を有効に活用し、財団の経営状態は借入金もなく安定的に推移している(令和元年度正味財産合計: 999,237,068 円)。

○外部資金の活用: 文化庁「劇場・音楽堂等機能強化推進事業(地域の中核劇場活性化事業)」／文化庁「劇場・音楽堂等間ネットワーク強化事業」／地域創造「地域の文化・芸術活動助成事業」／ごうぎん島根文化振興財団助成事業／首都圏へのグラントワの魅力発信事業(萩・石見空港利用促進事業)

○ホール友の会: 年会費制の会員制度／会員数1,432名(2020年3月時点／美術館との共通会員含む)

【各方面とのネットワーク】

劇場と美術館が併設する県立施設であるセンターの特性を生かし、設置者である島根県と劇場が位置する益田市の各部署との協力・協働体制を基盤に、近隣の自治体や各施設、団体とネットワークを持っている。

○劇場・音楽堂等: 「劇場、音楽堂等連絡協議会」への加盟／「劇場・音楽堂等間ネットワーク強化事業」(令和元年度2公演)へ開催館として参加／県内文化施設30館が加盟する「島根県公立文化施設協議会」に加盟

○PDCAに係る協議会等: 「島根県芸術文化センター協議会」(文化芸術・教育・報道機関等の有識者で形成する協議会)／「芸術文化とふれあう協議会」(益田市、吉賀町、津和野町、島根県、センターで形成する協議会)

○その他: 島根県合唱連盟(合唱)／栗友会(合唱)／石見神楽広域連絡協議会(伝統芸能) ほか